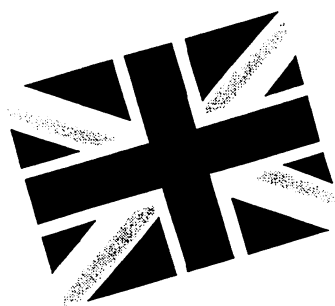




UNISON 組合員獲得運動・ 総選挙・イギリス国民党

遠藤公嗣 (明治大学教授)

この連載も5回目になりました。今回は、これまで4回の「イギリスだより」で取り上げたトピックスのいくつかについて、そのフォローアップ（後報）をしたいと思います。なお、私の

在イギリス研究も終わりが近づきましたので、今回をもって「イギリスだより」を終わらせていただきます。長期間のご愛読に感謝いたします。

UNISON 組合員獲得運動の成果

2004年10月は UNISON の組合員獲得運動月間でした（『自治と分権』18号）。その成果はどうだったのかと注意していたところ、ようやくそれらしい数値が公表されているのを見つけました。図表1です。図表1によると、UNISON 組合員総数は146万836人（表の右下隅の数値）です。組合員獲得運動月間の前は公称130万人でしたので、数カ月間で12パーセントないし16万人以上の実増加があったことになります。

この表は、2005年2月開催の UNISON 全国女性委員会に提出された報

告書の中にあります。いつ現在の数値なのか明記されていませんが、提出の時期からして、前年12月ころの数値と思います。もっとも、数カ月間で12パーセントないし16万人以上の実増加は多すぎるように思われ、加入者と同時に多いはずの脱退者が全部は整理されていない数値と思われます。また、そのために、いつ現在の数値なのか明記されなかったと思います。表の最上行の項目は、左から右へ、職域、女性数、その比率、男性数、その比率、性別不明数、その比率、総計数、となります。表から気づくことを2つ指摘しておき

図表 1 UNISON 組合員の職域別男女別内訳

**SERVICE GROUP MEMBERSHIP
GENDER BREAKDOWN (CURRENT & FULL MEMBERS)**

SERVICE GROUP	GENDER				NOT KNOWN	Proportion	TOTAL
	FEMALE	Proportion	MALE	Proportion			
Local Government	593,226	71%	227,573	27%	14,086	2%	834,885
Health Service	387,490	79%	96,392	20%	3,683	1%	487,565
Higher Education	31,149	68%	14,047	30%	898	2%	46,094
Police Staff	20,603	64%	11,366	35%	369	1%	32,338
Energy	16,573	53%	13,743	44%	1,144	4%	31,460
Water	5,328	32%	10,759	64%	641	4%	16,728
Transport	1,255	40%	1,755	56%	115	4%	3,125
Unknown (N/A)	6,422	74%	2,194	25%	25	0%	8,641
TOTAL	1,062,046	73%	377,829	26%	20,961	1%	1,460,836

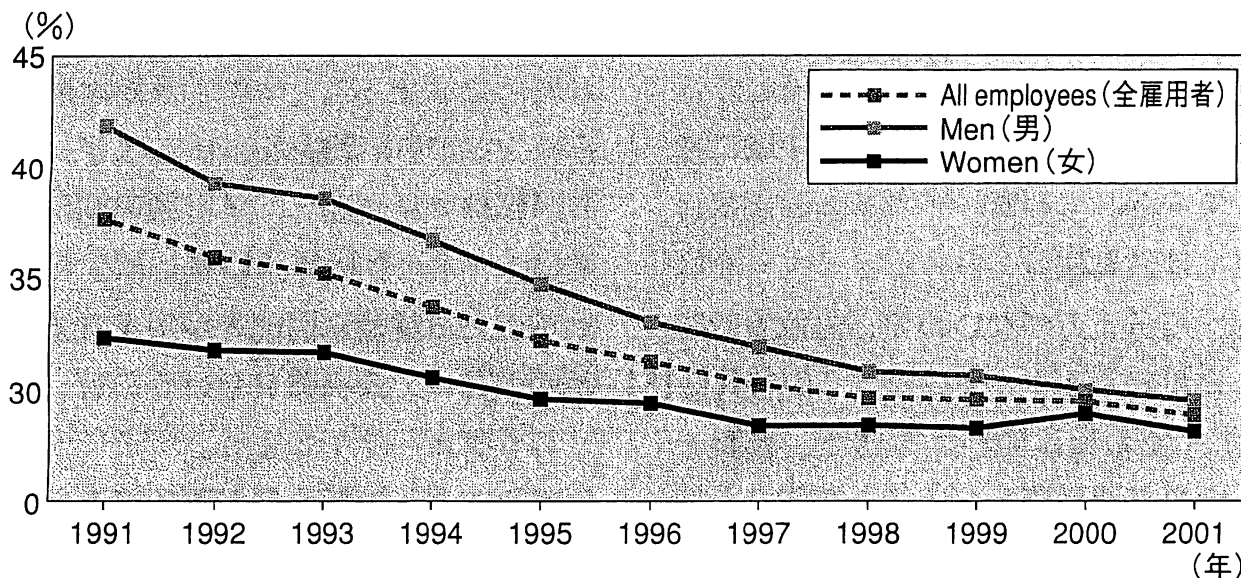
ましょう。

第一は、職域「地方自治体 (Local Government)」の組合員数が増加していないことです。この数年は83～85万人といわれていますから、それとほぼ同数です。UNISON 組合員総数で12パーセントも増加したのに、職域「地方自治体」組合員数が以前とほぼ同数なのは、それが増加していないことを示すように思われます。その重要な理由は、民営化だろうと思います。民営化された業務で非公務員となっても、UNISON 組合員はそのまま UNISON 組合員ですが、新規に雇用

される労働者を組合員に迎えることは容易でなくなるのではないのでしょうか。

第二は、女性組合員の増加です。図表 1 によると、UNISON 組合員総数で100万人の大台を突破しました。職域「地方自治体」でも多数ですが、職域「健康サービス (Health Service)」(病院の看護師などの職員) でも、職域「高等教育 (Higher Education)」(大学の職員) でも、多数です。イギリスの労働組合員を全体としてみると、男性は急減だが女性はそれほど減らない (図表 2 参照) ので、結果として女性化が進んでいます。最大組合の

図表2 イギリス労働組合員の1990年代における男女別組織率変化



レーバー・マーケット・トレンド誌（政府刊の調査雑誌）2002年7月号より作成

UNISON はその先頭にいます。

付け加えると、図表1のどの職域にも性別不明者がいますが、この数値は、組合員シートの性別記入漏ればかりでなく、レズビアン・ゲイ・両性愛者・性転換(願望)者（それぞれの頭文字をとり、全部をまとめてLGBTとといいます）の一部が含まれます。UNISON

には、公式の組合員LGBTグループが存在し、公式の組合員LGBT会議があります。その権利擁護を奨励するためです。日本では知られていませんが、イギリスのTUCおよび大労働組合にはLGBTのグループと会議が必ずといってよいほど存在します。

バーネット支部の組合員獲得運動

私が住むバーネット地方自治区にもUNISON支部がもちろんあります。このUNISON支部は、10月の組合員獲得運動で多大な成果を上げ、UNISON ロンドン地区から表彰されました。その記事がロンドン地区のUNI-

SON 職場委員向け新聞にありましたので、ご紹介しましょう。組合員獲得に7000ポンド（140万円）を支出し、460人の新組合員を迎えたとのことでした。

組合員獲得のターゲットは、バーネ

ットにある保育園・小学校・中学校・特殊学校の全130校に働く職員（教員をのぞく）におかれまして。そして、その約2000人のうち1200人が組織可能と予測されました。イギリス労働組合員には常勤職員とパートタイマーを区別する考え方がないので、対象者1200人にはパートタイマーが含まれます。

130校の校長に手紙を送り、校長との会見と対象者との会合を要求しました。対象者との会合では親しく面談し、その要求や希望を掘り起こすとともに、9つの言語に翻訳した勧誘文を渡しました。清掃職員に多いポルトガル人にあわせた資料を用意し、とくにターゲットにしました。

脱線すると、このあたりの記述は、バーネットを含むロンドンが国際都市化していることをよく示します。アジア系・アフリカ系・中東系住民が多いことは顔でわかりますが、そのほか、非イギリスの白人系住民も多い。たとえば、私の行きつけの床屋はユーゴスラヴィア出身です。近くのチェコ製自動車ディーラー店の周りではチェコ語（らしい）がよく聞こえる。私が別の店で中古車を買ったとき、試乗に同乗したのはブルガリア人でした。スーパーマーケットでは、ロシア語会話がときどき聞こえます（ロシア人の小さな

コミュニティが近くにあるらしく、私はロシア語なまりの英語で道を尋ねられたことがある）。ドイツ語の大声で携帯電話で買い物を相談する人がいます（私はロシア語とドイツ語の判別ができます）。そして、しばしば、ある地域のある職種に同国人が集まります。ポルトガル人清掃職員というのは、そういうグループでしょう。

勧誘文だけで組合員が獲得できるわけではありません。対象者にとって重要な問題について、キャンペーンや自治区との交渉が設定されました。対象者にとってアピール度が高かったと私が思うのは、対象者の雇用契約につき、52週（すなわち通年）契約を維持させ、学期毎契約に反対することです。現在のイギリスの学校では、費用削減のため、職員の雇用を学期中のみに短縮することがすすめられています。学校の清掃などはその典型でしょう。しかし、雇用される職員にとれば、これは明白な収入減であり雇用不安定になります。だから、職員は反対です。この職員の要求にこたえる活動です。また、対象者や新組合員の要求や希望について、各校長に3度手紙を書くとともに、電話でもつたえ、それを周知し理解を示すように促しました。これもアピール度が高かったと思います。対象者は英

語がつたないうえに文化ギャップがあるので、各校長に何も伝えられなかっただろうからです。

こうした活動の結果が、460人の新組合員の獲得でした。多くが教育関係職員です。そのため、バーネットの教

育関係職員のなかで、UNISON 組合員が最大となりました。また、支部は3人のアシスタントを新たに雇い、増加した組合員の仕事に当たらせることになりました。

総選挙と UNISON

2005年5月5日はイギリス下院議員の総選挙で、その結果、労働党が議席大幅減ながらも単独過半数を維持し、政権を維持しました。議席大幅減の最大の理由が労働党政権によるイラク参戦であることは、日本でも報道されたと思います。ここで指摘したいのは、単独過半数を維持できたほうの理由であって、いくつかあるのはもちろんですが、そのひとつに、労働組合との関係にある程度は改善できたことがあるように思います。

昨年前半までは、労働党政権にたいする労働組合の不満は相当なものでした。労働者に有利な政策を十分に実施してくれない、という不満です。組合リーダーが労働党閣僚の面前で厳しく公然と批判するのを、私も直に聞いたことがあります。この状況が改善に向かったのは、昨年7月に、UNISONを含む主要労働組合と労働党との間で、

将来の政策について広範な政策協定が結ばれたことです。この協定につづいて、それを実現するために労働党政権の継続を、と宣伝する労働者ボランティアを募る組織（TULOといいます）も、UNISONなどの尽力で設立されました。その後、とくに今年に入って総選挙が念頭におかれるようになってから、労働党政権がこれまでに実現した労働者に有利な政策と、政権継続後に実現する予定の政策を列記し、労働党への投票を組合員に訴えることが目につくようになりました。UNISONのさまざまな機関紙誌の記事は、その典型でした。

こういう流れからみると、労働党政権が「公共部門業務委託における労働者問題の実施基準」を本年2005年3月に制定し公表したことは、ある意味をもっています。この「実施基準」は、『自治と分権』19号でご紹介した「労

労働者問題にかんするベストバリュー「実施基準」を、地方自治体から多くの公共部門へ拡大するものです。すなわち、「地方自治体から」を拡大し、「多くの公共部門から」業務委託によって「転籍した労働者の労働条件に、全般的にまったく劣らない公正かつ妥当な雇用労働条件」によって、業務委託先の私企業・NPOが労働者を新規雇用することを義務化したのです。UNISONは労働党政権に「労働者の二層化」対

策を迫っていましたが、この新しい「実施基準」は、その大きく前進した対策となります。UNISONはこれを「大勝利」と評価し、3～4月に広く宣伝しています。たしかにそのとおりですが、総選挙を念頭においた労働党政権による新しい「実施基準」の公表であり、UNISONによる評価と宣伝である側面をもつことも、否定できないでしょう。

イギリス国民党 (BNP) への懸念

イギリス国民党 (BNP) は、暴力主義であり人種差別肯定の極右政党です (『自治と分権』16号)。BNPは、今回の総選挙に複数の選挙区で立候補しました。『ガーディアン』紙5月7日号選挙特集が、BNPが支持拡大のターゲットにしていた選挙区の一つ、ロンドン東部のバーキング選挙区の事情を記事にしているのでご紹介します。

バーキング選挙区でBNPの支持拡大の企図はかなり成功し、BNPの候補者は16.9パーセントもの票を得ました。BNPのこれまでの総選挙での最大支持率とのことです。このため、自由民主党を抜いて第3位につき、しかも第2位の保守党に27票差まで肉薄し

ました (当選者は労働党)。『ガーディアン』紙記事は、なぜ、これほどのBNPの進出をゆるしてしまったのかについて、選挙区の労働党と当選した労働党議員は真剣に分析すべきだとの、労働党首脳言葉を引用しています。

もっとも、同じく『ガーディアン』紙記事によると、この選挙区はかなり特徴ある住民状況のようです。アフリカ系と東ヨーロッパ人が非常に多い。「自宅からショッピングセンターまで1400メートルを歩いても、一言も英語を聞かない」という住民の声を紹介しています。「コソボ (ユーゴスラヴィアの地域名) タワー」との俗称で地元でよばれる街の一角があります。

BNP がばらまいた作り話として、アフリカ系家族がここへ移り住むと一家族あたり 5 万ポンド（1000 万円）が地方自治体から支払われる、というのがあるそうです。記事は、特徴ある住民状況が BNP の支持基盤となっていることを示唆しています。

この選挙区は、もともと労働党が圧倒的につよい選挙区なので、単純小選挙区制による下院議員総選挙では、労働党の当選が危ぶまれることはありません。しかし、BNP 進出についての懸念は総選挙前から大きく、労働党も、そして UNISON も、BNP の進出を非常に警戒していました。UNISON は、ロンドン地区への BNP 進出に反対する運動のキャンペーンにとりくんでいました。写真をご覧ください。

写真は、先に言及したところの、ロンドン地区の UNISON 職場委員向け新聞の第 1 面にあります。UNISON は、第 1 面にこの写真を掲げ、BNP のロンドン進出に反対する運動を最重要視していることを強調しています。そして、BNP 進出に反対する活動家の養成と会合の組織化をすすめ、BNP 進出に反対する共闘組織（サーチライトという名称をもっています）への活動資金の寄付などを表明しています。BNP がターゲットとする地域

Stop the BNP



BNP に反対する組合員

は UNISON に正確に認識されていて、バーキングと、そのとなりのデイグナムに UNISON の運動を集中すべきことを訴えています。

UNISON のこうした運動は、2006 年春にあるはずの、地方自治体選挙をにらんでのことです。そもそも、BNP の進出活動も同様でした。というのは、地方自治体選挙は小選挙区制ではないからです。全国的にどうなのかを私は知りませんが、たとえばバーネット自治区では、選挙区が 21 に分けられ、全部が定数 3 です。すなわち中選挙区制をとっています。定数 3 の中選挙区制であれば、選挙で第 1 党になる可能性

がほとんどない BNP であっても、議員を当選させる可能性はずっとたかまるのです。

もし BNP 候補者が地方議員に当選するならば、地方自治体の政策が影響を受けるかもしれませんし、UNISON 組合員の形式上の使用者が BNP 議員ということになってしまい

ます。というのは、ロンドンをのぞく通常の地方自治体には首長選挙がなく、議員が自治体首脳部なり自治体「内閣」を組織するからです。UNISON はロンドン地区で BNP 候補者が地方議員に当選するという事態を懸念し、反対する運動をつよめているのです。

ギャラウェイ議員（リスペクト党）の再選

BNP と 180 度ちがう話を追加します。今回の総選挙では、ジョージ・ギャラウェイ議員が再選されました。彼は、労働党左派リーダーとして、ながくグラスゴー選出の議員でしたが、イラク参戦につよく反対したため、労働党から除名されました。そこで、選挙区をロンドンの 1 つに変え、左翼小政連の連合党であるリスペクトから立候補し、現職の労働党議員を小差で破って、再選を果たしました。労働党より左の候補が議員に当選したのは、1945 年にイギリス共産党候補が当選して以

来、60 年ぶりのことです。

彼の選挙区は、ロンドン旅行案内書にも紹介される「のみの市」のブリック・レーンのあたりです。バーキング選挙区に近いが、それよりも中心部よりです。バングラデシュ系イスラム教徒の住民が多いところで、その支持を得ました。ちなみに、この地域の中心にあるマッチ工場跡は、イギリス労働運動史で有名なところですが、ギャラウェイ候補の選挙活動をした青年と話していて、それを偶然に教えられました。

（えんどう こうし）